

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
2075	東大教養学部が教える考える力の鍛え方	宮澤正憲	「改善はできても、新しいものが生み出せない」という、日本人の多くが抱えるジレンマを解決！考え方のフレームを身に付けるだけで、誰でも魅力的なアイデアが出てくるようになります。	SBクリエイティブ	2024	255
2072	宙(そら)わたる教室	伊与原新	新宿にある都立高校の定時制には、さまざまな事情を抱えた生徒たちが通っていた。そんな彼らは科学部を結成し、「火星のクレーター」の再現実験を始める…。	文藝春秋	2023	287
2071	地雷グリコ	青崎有吾	【第37回山本周五郎賞】女子高生が文化祭の屋上使用权を賭け、畏のある階段を上る「地雷グリコ」、百人一首の札を使った神経衰弱「坊主衰弱」など、5つの勝負に挑む。	KADOKAWA	2023	348
2069	きみのお金は誰のため ボスが教えてくれた「お金の謎」と 「社会のしくみ」	田内学	ある大雨の日、中学2年生の優斗は、ひょんなことで知り合った投資銀行勤務の七海と、謎めいた屋敷へと入っていく。そこにはボスと呼ばれる大富豪が住んでいて…。	東洋経済新報社	2023	247
2064	NHK理想的本箱 君だけのブックガイド	幅允孝, NHK「理想的本箱」制作チーム	番組で取り上げた24冊と、「選書Others」として新たに32冊をセレクト。星の数ほどある本から選ばれた56冊とは一。	NHK出版	2023	127
2053	本と鍵の季節	米澤穂信	堀川次郎は高校2年の図書委員。同じく図書委員の松倉詩門と当番を務めている。そんなある日、図書委員を引退した先輩女子が訪ねてきた。亡くなった祖父が遺した開かずの金庫、その鍵の番号を探り当ててほしいというのだが…。	集英社	2018	296
2045	新種発見物語 足元から深海まで11人の研究者が行く！	島野智之 脇司	新種の発見は、驚きと喜びに満ちている。舞台は身近な環境から遠く危険な未踏の地まで。虫、魚、貝、鳥、植物、菌など未知の生物との出会いにワクワクしながら、研究者たちの歩みを追体験。分類学の基礎も楽しく身につく、濃厚な入門書。	岩波書店	2023	254, 4
2043	菜と嘘の季節	米澤穂信	高校で図書委員を務める堀川次郎と松倉詩門。ある放課後、図書室の返却本の中に押し花の菜が挟まっているのに気づく。小さくかわいらしいその花は、猛毒のトリカブトだった。持ち主を捜す中で、ふたりは校舎裏でトリカブトが栽培されているのを発見し…。	集英社	2022	365

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
2039	この夏の星を見る	辻村深月	コロナ禍で登校や部活動が次々と制限される中、全国の中高生は複雑な思いを抱えていた。茨城県の亜紗、渋谷区の真宙、五島列島の円華…。それぞれに天文活動に出会った生徒たちは、オンライン会議を駆使して、全国でつながっていく。	KADOKAWA	2023	483
2034	核のごみをどうするか もう一つの原発問題	今田高俊 寿楽浩太	原子力発電によって生じる「高レベル放射性廃棄物」は国内に大量に溜まり続け、放射能の影響が弱まるまで長い年月を要するといわれている。この危険な「核のごみ」をどこにどのような方法で処分すればよいのか。問題解決への道を探る。	岩波書店	2023	226
2033	SDGsは地理で学べ	宇野仙	SDGsの内容をほぼすべて取り扱う“地理”。そんな地理を通して地球的課題を身近な将来の出来事として捉えていく本。地球と人類について考える地理だからこそ、人権、貧困、経済成長など、SDGsを網羅的に学ぶことができる。	筑摩書房	2022	180
2021	なぜ私たちは理系を選んだのか 未来につながる〈理〉のチカラ	柗太一	宇宙飛行士（山崎直子）、水族館職員、YouTuber、小説家、テーマパークのエンジニア、イルカ・クジラの研究者、アスリート…。アナウンサー・柗太一が、さまざまな分野で活躍している理系出身の人々に、理系の魅力や可能性、理系から広がる世界について聞く1冊。	岩波書店	2021	118
2020	時を刻む湖 7万枚の地層に挑んだ科学者たち	中川毅	2013年、水月湖が過去5万年の時を測る「標準時計」として世界に認められた。その真の意味とは。ひとりの若き研究者が描いた夢を発端に20数年、研究チームはどのように広がり花開いたか。当事者が熱く語る。	岩波書店	2015	122
2013	さばの缶づめ、宇宙へいく 鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち	小坂康之 林公代	「宇宙食、作れるんちゃう?」。はじまりは生徒の一言だった。高校生が作った缶づめが、宇宙へ旅立った! 予算の不足や開発の難航、学校統廃合の危機。葛藤の中で皆が力を合わせたとき、宇宙への扉が開いた…。数々の困難をのりこえる大気圏突破ノンフィクション。	イースト・プレス	2022	205
2009	香君 下 遥かな道	上橋菜穂子	遥か昔、神郷からもたらされたという奇跡の稲、オアレ稲。ウマール人はこの稲をもちいて帝国を作り上げた。この奇跡の稲をもたらし、香りで万象を知るといふ活神〈香君〉の庇護のもと、帝国は発展を続けてきたが、あるとき、オアレ稲に虫害が発生してしまう。時を同じくして、ひとりの少女が帝都にやってきた。人並外れた嗅覚をもつ少女アイシャは、やがて、オアレ稲に秘められた謎と向き合っていくことになる。	文藝春秋	2022	460
2008	香君 上 西から来た少女					435

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
2009	ウンコの教室 環境と社会の未来を考える	湯澤規子	あなたはウンコが嫌いですか？学校のトイレに行けない問題からSDGsまで、ウンコから考える未来。衣食住に「便」を入れると見えるものとは。文理、歴史の壁を越えた探究の旅に出かけよう。	筑摩書房	2022	220
2002	ぼくはイエローでホワイトで、 ちょっとブルー 2	ブレイディみかこ	中学生の「ぼく」の日常は、今も世界の縮図のよう。授業でのスタートアップ実習、ノンバイナリーの教員たち、音楽部でのポリコレ騒動、ずっと助け合ってきた隣人との別れ、そして母の国での祖父母との旅…。「親子の成長物語」、ついに完結。	新潮社	2021	204
1998	100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集	福井県立図書館	図書館利用者の「覚え違いタイトル」の実例を集めて公開している福井県立図書館の「覚え違いタイトル集」を、イラストとともに紹介。ページをめくれば「正しい書誌情報」と「司書によるレファレンス」が現れる。爆笑しながら司書の検索能力に驚嘆する1冊。	講談社	2021	189
1996	日本語とにらめっこ	モハメド・オマル ・アブディン	漢字も諺もおやしギャグも使いこなす！スーダンから来た全盲の青年はどうやって日本語を身につけたのか。本を読むことすらできなかった彼が、福井県立盲学校で学び、日本語で文章を書くまでの苦闘を語る。	白水社	2021	217
1994	旅する練習	乗代雄介	【第34回三島由紀夫賞】 中学入学を前にしたサッカー少女と、小説家の叔父。2020年、コロナ禍で予定がなくなった春休み、ふたりは利根川沿いに、徒歩で千葉の我孫子から鹿島アントラーズの本拠地を目指す旅に出る。	講談社	2021	170
1990	スモール・ワールドズ	一穂ミチ	【2022年 本屋大賞ノミネート】 【第9回静岡書店大賞】 【キノバス！2022 第4位】 夫婦円満を装う主婦と、家庭に恵まれない少年。「秘密」を抱えて出戻ってきた姉とふたたび暮らす高校生弟。初孫の誕生に喜ぶ祖母と娘家族…。愛おしい喜怒哀楽を描き尽くす連作集。	講談社	2021	299
1989	サード・キッチン	白尾悠	留学したアメリカで初めて迎えた孤独な冬。尚美を救い、変えたのは、出身地やLGBTQ、経済格差など、あらゆる学生が集い運営する食堂「サード・キッチン」との出会いだった。勇気を出して踏み出す姿に感涙必至の青春小説。	河出書房新社	2020	344
1986	こどもホスピスの奇跡 短い人生の「最期」をつくる	石井光太	【第20回 新潮ドキュメント賞】 余命少ない子供たちが辛い治療から離れ、やりたいことをのびのびとやり、家族と忘れぬ思い出をつくる。そんな、短くとも深く生きるための場所があったら…。「TSURUMI こどもホスピス」実現に向けて立ち上がった人たちのこれまでとこれから。	新潮社	2020	269

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1983	52ヘルツのクジラたち	町田そのこ	【2021年本屋大賞】 自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる。注目作家・町田そのこの初長編作品。	中央公論新社	2020	260
1982	お探し物は図書室まで	青山美智子	【2021年本屋大賞2位】 「お探し物は、本ですか?仕事ですか?人生ですか?」悩める人々が立ち寄った小さな図書室。不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない選書と可愛い付録で人生を後押しする。明日への活力が満ちていくハートウォーミング小説。	ポプラ社	2020	300
1975	エレジーは流れない	三浦しをん	山と海に囲まれた餅湯町。餅湯温泉を抱え、団体旅行客で賑わっていたかつての面影はとうにない。のどかでさびれた街に暮らす高校2年生の怜は、複雑な家庭の事情、迫り来る進路選択、自由な友人たちに振り回され、悩み多き日々を送っていたが…。	双葉社	2021	256
1974	イマジン?	有川ひろ	憧れていた映像制作の現場に飛び込んだ、良井良助(27歳)。そこは現実と物語を繋げる、魔法の世界だった。慣れない現場であたふたする良助だったが、作品と向き合う仲間たちの熱気に、焦られるような思いを募らせていく。お仕事小説&甘々ラブコメ。	幻冬舎	2020	395
1972	ペンギンが教えてくれた物理のはなし	渡辺佑基	【第68回毎日出版文化賞自然科学部門】 ペンギン、アザラシ、アホウドリなど、観察が難しい野生動物の体に記録機器を取り付ける研究方法「バイオロギング」。その研究成果を紹介し、背景にある物理法則から進化的な意義を明らかにする。	河出書房新社	2020	288
1970	虫とゴリラ	養老孟司 山極寿一	列島誕生から1500万年。「虫とゴリラ」の目で、人間の世界をとらえ直す。情報化社会の中で、コンピューターに支配されつつある現代日本人に贈る、日本の2大知性によるビッグ対談。	毎日新聞出版	2020	234
1969	夏の庭	湯本香樹実	【1997年ボストングローブ・ホーンブック賞】 【第26回日本児童文学者協会新人賞】 【第22回児童文芸新人賞】 町外れに暮らすひとりの老人をぼくらは「観察」し始めた。老人が死ぬ瞬間をこの目で見るために――。	新潮社	1994	218

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1968	IC0 霧の城 下	宮部みゆき	邪悪な力を持つ霧の城は、角の生えた子を生贄として求めていた。イコはしきたりに従い、霧の城へ。そこで檻に囚われた少女を発見したイコは彼女を助け出すが、その手を握ると何故か彼の頭の中に様々な幻像が…。	講談社	2004	381
1964-2	IC0 霧の城 上					330
1964-1	バッタを倒しにアフリカへ	前野ウルド浩太郎	バッタ被害を食い止めるため、バッタ博士は単身、モーリタニアへと旅立った。それが、修羅への道とも知らずに…。『孤独なバッタが群れるとき』の著者が贈る、科学冒険“就職”ノンフィクション。	光文社	2017	378
1961	線は、僕を描く	砥上裕將	両親を交通事故で失った大学生の青山霜介は、アルバイト先の展覧会場で水墨画の巨匠・篠田湖山と出会う。なぜか湖山に気に入られ、その場で内弟子にされてしまう霜介。それに反発した湖山の孫・千瑛は、翌年の「湖山賞」をかけて霜介と勝負すると宣言する。	講談社	2019	317
1958	ゼロからトースターを作ってみた結果	トーマス・トウェイツ	トースターくらいなら原材料から自分で作れるんじゃないか?と思った著者の汗と笑いの9カ月!(結末は真面目な文明論です)	新潮社	2015	211
1957	水を縫う	寺地はるな	学校で手芸好きをからかわれ、周囲から浮いている清澄は、かわいいものや華やかな場が苦手な姉のため、ウェディングドレスを手作りすると宣言するが…(「みなも」)。世の中の「普通」を踏み越えていく、6人の家族の物語。	集英社	2020	240
1956	友だち幻想	菅野仁	友だちは何よりも大切。でも、なぜこんなに友だちとの関係で傷つき、悩むのだろう…。そんな悩みを持つ人に贈る、人と人との距離感を磨いて、上手に「つながり」を築けるようになるための本。	筑摩書房	2008	156
1950	逆ソクラテス	伊坂幸太郎	【第33回柴田錬三郎賞】逆境にもめげず、簡単ではない現実に立ち向かい、非日常的な出来事に巻き込まれながらもアンハッピーな展開を乗り越え、僕たちは逆転する。無上の短編5編(書き下ろし3編)を収録。	集英社	2020	276

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1941	ぼくはイエローでホワイトで、 ちょっとブルー	ブレイディみかこ	英国ブライトン市でランキングトップのカトリック系公立小学校から白人労働者階級が多く通う元・底辺中学に進学した息子の日常の様々なエピソードを、母の目でとらえたノンフィクション。【第2回 YAHOO! JAPAN ニュース 本屋大賞ノンフィクション本大賞受賞】	新潮社	2019	252
1936	ロウソクの科学	ファラデー	「この宇宙をまんべんなく支配するもろもろの法則のうちで、ロウソクが見せてくれる現象にかかわりをもたないものは一つもないと言ってよいくらいです」 2019年ノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏が科学に興味をもつきっかけの本として話題となった不朽の名著。	KADOKAWA	2012	206
1934	ぼくがゆびをぱちんとならして、 きみがおとなになるまえの詩集	斉藤倫	「ことばにならないものが、ことばになってるの?」「ただしくいうと、ことばになってるんじゃないかと、ことばにしようとした、あと、なんだ」「きみ」と「ぼく」の、20編の詩をめぐるストーリー。詩人斉藤倫と考える、詩のこと、ことばのこと。	福音館書店	2019	158
1924	早朝始発の殺風景	青崎有吾	始発の電車、放課後のファミリーレストラン、観覧車のゴンドラの中、平屋のレストハウス、 煤木戸さんの部屋。高校生たちの関係が日常の小さな謎を通して少しずつ変わってゆく、5つの“青春密室劇”+エピソード。	集英社	2019	205
1911	ザ・ハイト・ユー・ギヴ	アンジー・トーマス	スターはゲットー（黒人街）に暮らし上流階級の高校に通う女の子。ある日友人が白人警官に目の前で射殺され、事件は悪意のある報道をされ広まっていく。友の汚名を晴らすため、スターは立ち上がる。アメリカの社会問題を捉えたティーンズ小説。	岩崎書店	2018	470
1898	かがみの孤城	辻村深月	閉じこもっていたところの目の前で、鏡が光り始めた。鏡をくぐり抜けた先には不思議な建物があり、そこには7人の中学生が集められていた。7人が願いを叶えるために隠された鍵を探す感動の物語。【2018年本屋大賞第1位】	ポプラ社	2017	554
1895	女の子が生きていくときに、 覚えていてほしいこと	西原理恵子	人生に船出する娘に母が伝えたいこと、それは、自分の人生や子育ての折々に考えたこと、悟ったこと、決めたこと。「ぼくんち」「毎日があさん」等で知られる漫画家の厳しくもハートフルな生き方指南。	KADOKAWA	2017	157
1891	そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森ノースウッズ	大竹英洋	カナダとアメリカの国境、五大湖付近から北極圏にかけて広がる湖水地方“ノースウッド”。写真家をめざした若者は、なぜ森と湖の世界へと旅立ったのか。「ナショナルジオグラフィック日本版」のウェブサイトで連載を加筆訂正したノンフィクション。	あすなる書房	2017	418

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1885	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	勇気、いじめ、貧困、格差、教養等のテーマに、人間として真摯に向き合う主人公のコペル君と叔父さん。2人の姿勢には、数多くの生き方の指針となる言葉が示されている。日本を代表する歴史的名著の新装版。	マガジンハウス	2017	233
1880	スウィングしなけりゃ意味がない	佐藤亜紀	15歳のエディと仲間たちが熱狂しているのは、頽廃音楽と呼ばれる“スウィング”だ。だが、音楽と恋に彩られた彼らの青春にも、徐々に戦争が色濃く影を落としはじめる…。戦時下のドイツを舞台に描く音楽青春小説。	KADOKAWA	2017	233
1865	空への助走	壁井ユカコ	バレ一部、陸上部、柔道部、釣り部…。それぞれの悩みを抱えながら部活に打ち込み、時にチームメイトとぶつかり、時に恋に揺れ動く高校生たちのまぶしい青春の日々を描く連作短編集（4編収録）。	集英社	2016	304
1860	蜜蜂と遠雷	恩田陸	数多の天才たちが繰り広げる競争という名の自らと闘い。ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春群像小説。【第156回直木賞受賞 第14回本屋大賞1位】	幻冬舎	2016	287
1859	ストロベリーライフ	荻原浩	イチゴ農家を継げと迫る母親。猛反対の妻。志半ばの仕事はどうする。夢を諦めるか、実家を捨てるか。恵介36歳、今、人生の岐路に立つ…。【第63回青少年読書感想文全国コンクール課題図書(高等学校の部)】	毎日新聞出版	2016	281
1858	神さまのいる書店 まほろばの夏	三萩せんや	本好きの高校2年生・紙山ヨミが、夏休みのバイト先として紹介された、まほろば屋書店。そこは魂の宿る生きた本「まほろ本」を扱う、世にも不思議な書店だった。第2回ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞受賞作。	KADOKAWA	2015	233
1845	屋上のウインドノーツ	額賀濤	友達がひとりもない県立高校へ入学した引っ込み思案の少女・給前志音は、ワケありの部長・日向寺大志に誘われ吹奏楽部に入部する。やがて厳しい練習の日々を過ごすようになり…。第22回松本清張賞受賞作。	文芸春秋	2015	304
1839	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七月隆文	京都の美大に通うぼくは、一目惚れした女の子に意を決して声をかけ、交際にこぎつける。しかし、気配り上手でさびしがりやな彼女には、大きな秘密が隠されていた。第3回京都本大賞受賞作。	宝島社	2014	287

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1838	君の臍臓をたべたい	住野よる	他人に興味を持たずクラスで孤立している僕と、天真爛漫な性格で人気者の山内桜良。ある日偶然、僕は1冊の文庫本を拾う。それは彼女が綴った秘密の日記帳だった。発売後1年で60万部を突破した、圧倒的デビュー作。	双葉社	2015	281
1834	セブンティーン・ガールズ	北上次郎	文芸評論家・北上次郎の選ぶ青春小説アンソロジー。宮下奈都の長編『スコア№. 4』より、主人公の高校時代の淡い恋心を描く「No. 2」が収められているほか、大島真寿美、豊島ミホ、中田永一、森絵都による思春期の女子を主人公とする短編5篇を収録。	KADOKAWA	2014	255
1798	2. 4 3 清陰高校男子バレー部	壁井ユカコ	ありあまる才能と情熱ゆえに周囲との軋轢を生む灰鳥と、その幼馴染で身体能力は抜群だがプレッシャーに弱い黒羽。2人の少年を中心に、福井の弱小バレー部が全国優勝を目指して動き出す。ぶつかりながら成長していく少年たちを描く、さわやかな青春スポーツ小説。	集英社	2013	394
1797	島はぼくらと	辻村深月	瀬戸内海の小さな島、冴島。島の子はいつか本土に渡る…。瀬戸内の離島を舞台に、そこで暮らす男女4人の高校生の青春を描く長編小説。直木賞受賞作家の受賞後書き下ろし第1作。	講談社	2013	329
1773	体感する宇宙	竹内薫	超新星爆発やヒッグス粒子、ブラックホールなど、耳にしたことはあってもなかなかイメージしづらい宇宙用語の数々を、日常生活に置き換えて解説する、「体感型」宇宙雑学本。身近なエピソードで楽しく体感しながら宇宙を理解できる。	KADOKAWA	2014	199
1772	3年7組食物調理科	須藤靖貴	県立新居山総合技術高校の食物調理科、通称「シヨクチョウ」では料理人のたまごたちが毎日料理に明け暮れている。米崎恵志は、集団調理で先生にお弁当を食べてもらう「営業」を前に張り切っていたが…。	講談社	2014	255
1771	さきちゃんたちの夜	よしもとばなな	失踪した友人を捜す早紀。祖父母秘伝の豆スープを配る咲。双子の兄を事故で亡くした崎の部屋に転がり込んだ、10歳の姪さき。今「さきちゃん」たちに訪れた小さな奇跡が、かけがえのないきらめきを放つ。	新潮社	2013	227
1760	高校生が心に刻んだ戦争と平和の証言	東京の高校生平和のつどい実行委員会	「東京の高校生平和のつどい」や実行委員会で聞いた、戦争体験者などの証言をまとめた本。「MESSAGE-未来を生きるみんなへ」「戦争と平和の証言」「高校生は学び、語り、表現する」の3部構成。	平和文化	2012	159

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1749	世界地図の下書き	朝井リョウ	児童養護施設で暮らす子どもたち。大切な人との別れの日に向けて、4人の小学生が計画した「作戦」とは。それぞれ事情を抱える子どもたちの痛みや葛藤、成長を書いた長編小説。	集英社	2013	325
1731	くちびるに歌を	中田永一	拝啓15年後の君へ。中学合唱コンクールを目指す部員たちは、15年後の自分に手紙を書く。その手紙には、誰にも話せない秘密が綴られていた。幸福感が訪れることなくピュアな青春小説。第61回小学館児童出版文化賞受賞作。	小学館	2011	285
1722	スティーブ・ジョブズの生き方	カレン・ブルーメンタール	2011年10月5日、惜しまれながら世を去ったスティーブ・ジョブズ。スタンフォード大学卒業式でのスピーチにならい、「3つの物語」からジョブズの、目を見張る特異な生涯を描く。中学生から読める本格伝記。	あすなろ書房	2012	349
1712	まゆみのマーチ	重松清	歌が大好きな女の子まゆみと母の物語の表題作のほか、いじめに巻き込まれた少女の孤独な闘いを描く「ワニとハブとひょうたん池で」などを収める自選短編集。(女子編)	新潮社	2011	319
1677	卒業ホームラン	重松清	少年野球チームのいつも補欠の6年生、智の物語の表題作のほか、忘れられない転校生との友情を描く「エビスくん」などを収める自選短編集。(男子編)	新潮社	2011	330
1676	人間の条件	立岩真也	成果主義、自己決定、介護、格差、貧困などのテーマを、いまほど待たないに再検証すべき時代、またそれが可能である時代は、かつてなかった。それらをいま、著者がはじめてやさしく語り尽くす。	理論社	2010	392
1667	桐島、部活やめるってよ	朝井リョウ	バレー部の「頼れるキャプテン」桐島が、突然部活をやめた。それがきっかけで、田舎の県立高校に通う5人の生活に、小さな波紋が広がっていく…。第22回小説すばる新人賞受賞作。	集英社	2010	198
1666	横道世之介	吉田修一	なんにもなかった。だけどなんだか楽しかった。懐かしい時間。愛しい人々…。『パレード』『悪人』の吉田修一が描く、風薫る80年代の青春群像。平成の三四郎ともいえる、傑作青春小説誕生。	毎日新聞社	2009	423

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1638	学問	山田詠美	「私ねえ、欲望に忠実なの。愛弟子と言ってもいいね」。4人の少年少女の、生と性の輝き。そしていつもそこにある、かすかな死の影。4人が過ごしたかけがえのない時間…。山田詠美の新たな代表作。	新潮社	2009	292
1637	よろこびの歌	宮下奈都	音大附属高への受験に失敗した玲は、同級生との交わりを拒み、母親へのコンプレックスから抜け出せずにいる…。歌うことの意味、仲間と声を合わせる喜びに気づき、成長する女子高生たちの姿を描く青春小説。	実業之日本社	2009	204
1636	ミュージック・ブレス・ユー！！	津村記久子	オケタニアザミは高校3年生。数学が苦手な追試や補習の連続、進路は何ひとつ決まらない彼女の「ぐだぐだ」の日常を支えるのは、パンクロックだった…。情けなくて愛おしい、極上の青春小説。第30回野間文芸新人賞受賞作。	角川書店	2008	218
1608	21 (twenty one)	小路幸也	なぜ自ら死を選んだのか。僕たちに何も告げずに。特別な絆で結ばれていると信じていた人を突然喪った時、胸にこみ上げる思いをどうすればいいんだろう…。 “生きていく意味” を深く問いかける感動作。	幻冬舎	2008	253
1607	荒野	桜庭一樹	山野内荒野、12歳。恋愛小説家の父と暮らす少女のもとに、新しい家族がやってきた。“恋”とは、“好き”とは…。移ろいゆく季節の中で、少女は大人になっていく。直木賞受賞第1作、感動の長篇小説。	文藝春秋	2008	506
1606	悩む力	姜尚中	文明がもたらす人間の苦しみを100年前に直視した漱石とウェーバー。その言葉をヒントに、最後まで悩みを手放すことなく真の強さを掴み取る生き方を提唱。現代を代表する政治学者の学識と経験が生んだ珠玉の1冊。	集英社	2008	190
1605	スコアレNo.4	宮下奈都	どうしても忘れられないもの、拘ってしまうもの、深く愛してしまうもの。そういうものこそが扉になる…。日常の丹念な描写から、ひとりの女性への道のりを描く、著者初の書き下ろし長編小説。	光文社	2007	267
1604	ダーウィンの『種の起源』（名著誕生）	ジャネット・ブラウン	「進化論」を高度な理論にまで高めた画期的な書『種の起源』誕生の経緯から、出版当時どのような賞賛と批判を受け、さらに今日に至るまで名著として輝きを放ち続けているのかを、わかりやすく解き明かす。	ポプラ社	2007	203

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1578	マルクスの『資本論』（名著誕生）	フランシス・ウィーン	当時の何百万人もの人生に影響を与え、世界の歴史の流れを変えた『資本論』。さまざまに論じられてきたこの書物を、「資本主義」という怪物を主人公として小雪として読みなおし、当時の時代背景とマルクスの個人的な悲劇も含めて生き生きと描く。	ポプラ社	2007	212
1577	老人と海（新潮文庫）	アーネスト・ヘミングウェイ	老漁夫サンチャゴは四日間の死闘の末、巨大なカジキマグロを捕まえる。しかし帰途、サメに襲われ、舟にくくりつけられた獲物は失われてしまう。徹底した外面描写を用い、孤独の中で雄々しく闘う老人の姿を通して自然の厳粛さと人間の勇気を謳うヘミングウェイの代表作。	新潮社	2003	170
1575	武器よさらば 下 （光文社古典新訳文庫）	ヘミングウェイ	第一次世界大戦のイタリア戦線。アメリカ人中尉と恋人のイギリス人看護婦は非常な戦場からスイスへと逃れるが……。戦争という死と隣合わせの場で燃え上がる愛。ヘミングウェイ自身の北イタリア戦線従軍体験をもとにした記念碑的作品。	光文社	2007	308
1574	武器よさらば 上 （光文社古典新訳文庫）					273
1573	車輪の下（新潮文庫）	ヘルマン・ヘッセ	ノーベル文学賞受賞作家であるヘッセの代表的自伝小説。周囲の期待を一身に背負い猛勉強の末、神学校に合格したハンス。しかし厳しい学校生活になじめず、学業からも落ちこぼれ、故郷で機械工として新たな人生を始めるが。地方出身の一人の優等生が、思春期の孤独と苦しみの果てに破滅へと至る姿を描いている。	新潮社	1951	224
1572	カラマーゾフの兄弟5 （光文社古典新訳文庫）	ドストエフスキー	地主フォードル・カラマーゾフの息子たち、性格がお互いに全く異なる3人の兄弟ドミートリー、イワン、アリョーシャと、その息子であるとは認められていないスルメジャコフの物語。フォールドの殺害とその事件をめぐる裁判を描く。ドストエフスキーの最後の長編小説であり、世界文学の最高峰。	光文社	2007	365

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1571	カラマーゾフの兄弟4 (光文社古典新訳文庫)	ドストエフスキー	地主フォードル・カラマーゾフの息子たち、性格がお互いに全く異なる3人の兄弟ドミートリー、イワン、アリョーシャと、その息子であるとは認められていないスルメジャコフの物語。フォールドの殺害とその事件をめぐる裁判を描く。ドストエフスキーの最後の長編小説であり、世界文学の最高峰。	光文社	2007	700
1570	カラマーゾフの兄弟3 (光文社古典新訳文庫)				2007	541
1569	カラマーゾフの兄弟2 (光文社古典新訳文庫)				2006	501
1568	カラマーゾフの兄弟1 (光文社古典新訳文庫)				2006	443
1567	ヴェニス商人 (光文社古典新訳文庫)	シェイクスピア	恋に悩む友人のため貿易商アントニオは、ユダヤ人の高利貸シヤイロックから借金をしてしまう。担保は自身の肉1ポンド。商船が難破し全財産を失ったアントニオにシヤイロックは証文とおりの返済をせまる。中世のイタリアを舞台に繰り広げられる商取引と恋の喜劇。	光文社	2007	241
1566	異邦人(新潮文庫)	アルバール・カミュ	ノーベル文学賞受賞作家であるカミュの代表作。灼熱の地アルジェリアを舞台に、頹廢的で無口でありながら知的な青年主人公ムルソーの本心を偽らない人間性と彼をとりまく欺瞞的な社会常識への強烈な反発を描く。	新潮社	1954	134
1565	変身(白水社Uブックス)	フランツ・カフカ	ある朝、目を覚ますと巨大な虫になっていた男とその家族を描く。この異常な事件をごくありふれた日常茶飯事のように語る冷静な報告調の文体が特徴。実存主義文学の代表的作品。	白水社	2006	147
1564	泉鏡花(ちくま日本文学11)		泉鏡花(1873-1939):金沢生まれ。尾崎紅葉の門に入り、認められる。大正から昭和にかけて自然主義やプロレタリア文学がおこる文壇とは遠いところで、幻想と怪異をもち、独特の文体に支えられた編奇性の強い文学を書いた。収録作品:雛がたり、国貞えがく、三尺角ほか3編	筑摩書房	2008	476

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1563	三島由紀夫 (ちくま日本文学10)	三島由紀夫	三島由紀夫(1925-1970):東京四谷生まれ。東大法科を経て大蔵省に入るが、まもなく退職。「仮面の告白」によって文壇の地位を確立。「愛の濁き」「金閣寺」「潮騒」など次々と話題作を発表。収録作品:海と夕焼、中世、夜の仕度、家族合せほか9編	筑摩書房	2008	476
1562	坂口安吾 (ちくま日本文学9)	坂口安吾	坂口安吾(1906-1955):新潟市生まれ。インド哲学、フランス文学を学んだ後、戦争中、卓抜なエッセイを書きつづけ、戦後「白痴」「墮落論」で一挙に世に出た。独特の発想と視点をもった文明批評や探偵小説なども書いている。収録作品:風博士、村のひと騒ぎ、FARCEに就て、石の思いほか10編	筑摩書房	2008	476
1561	太宰治 (ちくま日本文学8)	太宰治	太宰治(1909-1948):青森県北津軽郡の生まれ。中学の頃より同人誌に習作を発表。「魚服記」「思い出」でデビュー。戦中から戦後にかけて「ロマネスク」「富嶽百景」「お伽草子」など次々と秀作を発表。流行作家としての栄光のさなかに自殺。収録作品:魚服記、ロマネスク、陰火、満願ほか11編	筑摩書房	2008	477
1560	江戸川乱歩 (ちくま日本文学7)	江戸川乱歩	江戸川乱歩(1894-1965):三重県名張の生まれ。学生時代に英米の推理小説を耽読。卒業後、会社員、古本屋、新聞記者など職業を転々としたのち、大正12年に「二銭銅貨」を発表。筆名はエドガー・アラン・ポーにちなむ。収録作品:白昼夢、火星の運河、二銭銅貨ほか15編	筑摩書房	2008	476
1559	寺山修司 (ちくま日本文学6)	寺山修二	寺山修司(1935-1983):青森県弘前市生まれ。劇団「天井桟敷」を結成し劇作家、演出家として活動するかたわら、小説、批評、詩、歌謡、映画、競馬評論などさまざまな分野で才能を発揮した。旺盛な仕事のさなかに急死。収録作品:誰か故郷を想はざる(抄)、家でのすすめ(抄)ほか11編	筑摩書房	2007	476
1558	幸田文 (ちくま日本文学5)	幸田文	幸田文(1904-1990):東京向島の生まれ。父露伴より家事、身辺にわたりにきびしい躰をうける。晩年の父をみとり、その死を述べた「終焉」「葬送の記」で文壇に登場。ジャーナリズムと隔たりをとり文筆活動をつづけた。収録作品:勲章、姦声、髪、段ほか10編	筑摩書房	2007	476
1557	尾崎翠 (ちくま日本文学4)	尾崎翠	尾崎翠(1896-1971):鳥取の生まれ。女学校時代に「文章世界」への投稿を始める。日本女子大に入学後、「無風帯から」を発表。女子大中退後、文学に専念。昭和7年の帰郷後、音信を絶つ。戦後、ひっそりと死去。収録作品:こおろぎ嬢、地下室アントンの一室、歩行、第七官界彷徨ほか12編	筑摩書房	2007	477
1556	宮沢賢治 (ちくま日本文学3)	宮沢賢治	宮沢賢治(1896-1933):岩手県花巻市生まれ。盛岡の高等農林学校在学中に詩や散文の習作をはじめ。その後、農学校で教えてつづ多くの詩や童話を書く。生前はほとんど無名のままに死去。収録作品:革トランク、毒もみのすきな署長さん、風の又三郎ほか16編	筑摩書房	2007	476

番号	タイトル	著者	内容紹介	出版社	出版年	頁数
1555	芥川龍之介（ちくま日本文学2）	芥川龍之介	芥川龍之介(1892-1927)：東京の下町生まれ。東大英文科在学中に書いた「鼻」が夏目漱石の激賞を受ける。王朝物、キリシタン物、開化物など、たえず新機軸につとめ、知的で清新な作風をつくりあげた。睡眠薬により自殺。収録作品：トロッコ、蜜柑、お時儀、鼻ほか14編	筑摩書房	2007	476
1554	内田百閒（ちくま日本文学1）	内田百閒	内田百閒(1889-1971)：岡山市生まれ。教師をやめたのち作家活動に入る。飄逸な「百鬼園随筆」によってひろく世に出た。借金術の大家で、鉄道好きとしても知られていた。収録作品：花火、山東京伝、件、流木ほか32編	筑摩書房	2007	476